

『三本の矢』でミスをなくす!

これは当社のマニフェストのひとつです。

校正
スタッ
フ

HallmarkCenter

Proof Checker PRO

近年急速に進んだデジタル化の流れは、これまでの作業工程にフィルムレスという大きな変化をもたらそうとしています。

このフィルムレス化は制作物によっては『色校正』の工程カットを可能にし、時間短縮やコストダウンというメリットを生みますが、反面いくつかの新たなリスクもともないます。

色校正がなくなると、たとえば制作物にミスがあった場合、ミスを発見する最後の機会が失われます。また、直接印刷工程に進むと、万一デジタルデータからの面付けなどの際に何らかの思わぬ変化が生じた場合、その差異が見落とされたまま印刷されるといった重大な事故につながってしまう恐れがあります。

当社ではこれらのリスクをカバーするため、検査体制の強化として『Hallmarker』と『Proof Checker PRO』という二つのデジタル検査を導入いたしました。制作過程ではこれまで以上に間違いのないデータを制作するとともに、従来どおりの目視による校正に加え、この二種類のデジタル検査を工程によって使い分けることで、制作物の品質をより確実なものとする取り組みをしております。



デジタル検査の導入と当社の検査体制

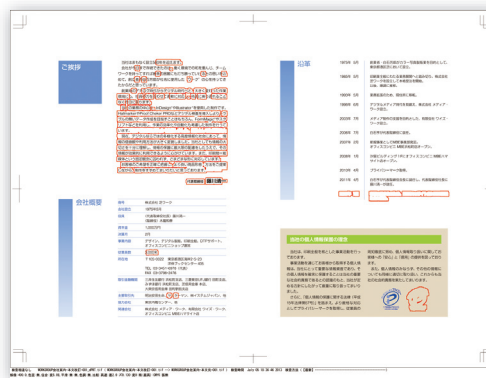
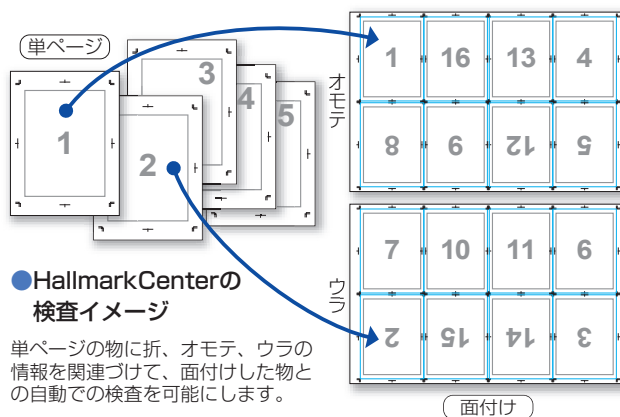
検査対象の媒体を選ばないHallmarker

Hallmarkerは二つの検査対象を『画像』として比較します。検査用に、印刷物の場合はスキャンで、デジタルデータの場合はRIPIを通してTIFF化したものを比較するため、検査対象が紙・デジタルデータどちらの媒体でも対応でき、比較する組み合わせも自由になります。

また、比較したい検査エリアを指定すると、自動的に比較先の該当箇所を見つけ出して位置合わせを行なう機能を備えているため、単ページ状態の物と面付けした物との比較が可能になります。さらに当社ではHallmarkerの機能を拡張した『HallmarkCenter』を導入しているため、大量ページ物にも対応でき、面付けした物との比較もあらかじめ折情報を読み込ませておけば自動的に行うことができます。

機械による検査では許容度が狭いため、紙のわずかな歪みや伸縮からくる誤差、色調のぶれといった『間違いではないもの』までも『差異』として拾ってしまいがちです。しかし、Hallmarkerは許容度の設定により人の目でチェックするような「曖昧さ」を持った検査ができるため、検査対象の事情に合わせた最適な検査結果が得られます。

当社では主に校了後の工程にHallmarkerでの検査を組み込み、校了紙と色校了紙または下版用PDFデータに「差異がない」ことを確認いたします。検査結果は『検査済み証』として、納品の際に出力紙またはデータを添付させていただきます。



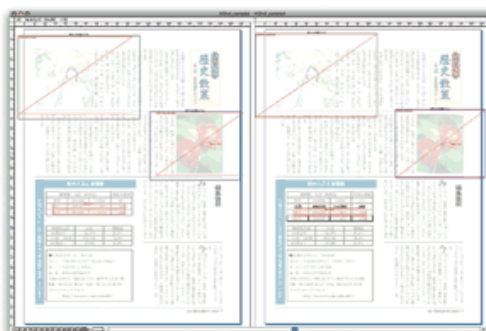
PDFファイルを比較するProof Checker PRO

Proof Checker PROは二つのPDFファイルを比較する検査ソフトです。『見た目』で比較するHallmarkerとは違い、Proof Checker PROはデータの内容で照合するため、より厳密に差異を拾います。

照合結果は、単純に差異がある部位を示すだけでなく、「テキストが変わった」「フォントが変わった」「何ミリ移動した」「色が変わった」などといった相違内容を明示し、ヘアラインやオーバープリントの警告もします。また、『テキストのみの比較』など、目的をしばった使用も可能です。ページの追加や削除によってオブジェクトがページを移動しても、ページ間を同期する機能によって正しく対応することができます。

当社では、データ制作過程でProof Checker PROを使用

し、主に再校以降の校正時に「赤字のない部分に変更されていないか」を確認する用途として使っています。ご要望があれば照合結果を出力してお渡しいたします。



総合的な校正力でミスを未然に防ぐ

新規組版時など比較元となる校正物がない場合や、大幅な修正で変更箇所が多すぎる場合、デジタル検版の運用は現実的には不可能です。そのような時は、校正スタッフの目視による読み合わせ校正を重点的に行います。やはり機械にはないバランス感覚や視点が重要になってきます。

また、比較元となる校正物があり、修正が軽微な場合にはProof Checker PROであらかじめ確認するポイントをしばり、校正スタッフによる目視校正との連携をとることで、校正作業の効率化をはかります。

Hallmarkerは主に最終段階で使用し、お客様から校了を

いただいた校正紙と印刷所に渡す下版用PDFデータが本当に同一のものであるかを確認します。改訂や印行訂正での増刷時にも、印刷物と修正データを比較することで、取り扱う前回データが正しいものであるかを確認することができます。

また、色校正を刷らない場合の代用として、DDCP（デジタル色校正）による見本印刷のご提案もしています。

このように当社では、校正スタッフ、Proof Checker PRO、Hallmarkerの三種類の校正方法を総合的かつ効率的に運用することで、より確実なデータ作成と迅速な納品を目指しています。